

生物多様性対策

産廃施設で保全活動

黒姫、調査と人材教育開始

黒姫（東京都足立区、渡辺明彦社長、03・3896・7111）は、生物多様性保全対策を強化する。8月中旬から本社と千葉県船橋市の産業廃棄物中間処理施設周辺の生態系調査を実施し、結果を今後の保全計画づくりに生かす。生物多様性保全の推進員として指名した社員3人を軸に、約70人の全社員で保全意識を共有する。いずれも事業を通じて社会的課題の解決に貢献する方針に基づいた取り組みで、他社との差別化につなげる。

地域の生態系調査はカーボンフリーコンサルティンク（横浜市中区）と生態計画研究所（東京都東村山市）に委託する。船橋の中間処理施設ではこれまで緑化や生き物の生息環境づくりを進めてきたが「素人的発想の域を出なかった」（渡辺社長）。今回、専門家に生態系の状況を調べても

らうことで「地域で暮らす生き物に適した樹木を植えるなど、一歩進んだ対策に取り組みたい」

（同）としている。社内では生物多様性保全の推進員3人のほか希望する社員に、環境教育の指導者養成を目的とした外部の講習会を受講させる。受講費用は会社側で負担する。

同社は東京23区を中心とする関東地域で、建設廃材のがれき類の運搬と中間処理を手がける。運搬面ではエンジンを小型化し、環境に配慮した都市型ダンプへの切り替えを実施。中間処理では破碎したがれき類を道路資材ではなく、建設資材としてリサイクルする技術の研究開発を産学連携で進めている。「建設廃材をもう一度建築に使うことで山を新たに切り崩さずに済み、生物多様性保全にも貢献できる」（同）とみている。